

1. 天災列島日本

今年度日本上陸10本目の台風23号の傷跡が回復する間もなく、新潟県を中心に活断層による群発地震が発生し、毎日報道を賑わせています。

今年ほど、自然災害が発生したのは歴史上にも希なことと思われます。

台風においては、地球温暖化の影響で勢力の強い台風が発生しやすい環境になっていると言われています。気象学者は、風力の強さ、気圧の低さにおいて、今まで経験したことのない、強力な台風の出現を予想しています。

その片鱗は現れているようです。神奈川県でトラックが30台以上横転した現場でそのトラックの上にトラックが重なっていた写真を見て、瞬間に猛烈な突風が吹いた事が想像されます。トラックが空中を飛んだと目撃されています。これはダウンバースト現象ではないかと言われています。

東北地区は、今まで台風が上陸してもアルプスなどの山岳のおかげで、台風の勢力が弱まり、東北地区の被害が大きくなりにくい地域特性があります。しかし、海から直接上陸した場合、今年北海道に直撃した例のように、勢力が強いままで上陸したので、北海道各地で強風の被害がかなりありました。

よって、東北地方といえども、今年は良かったものの、いつでも台風の直撃や豪雨に見舞われる危険性はあります。

地震も活断層がある以上、いつ発生してもおかしくありません。

今回の発生地域も、いわゆる地震の空白地域であり、長きに渡り地震が発生していない地域でした。テレビでのインタビューに答えていた70歳代の男性も、「こんな地震は初めてだ」と言っていました。阪神・淡路大震災の時も同じ様なインタビューで80歳台の女性も同じことを言っていました。

地震のサイクルは人間の寿命を遙かに超えた長期のスパンですので、当然といえば当然の答えだと思います。

今回の地震は、どちらかといえば人口密度の低い地域での発生なので、死傷者数や被害の金額総数は、1995年の阪神・淡路大震災に比較して少ない様ですが、これが人口密度の高い地域での発生となれば、計り知れない被害が広がっていたことでしょう。

山形県も活断層による地震の空白地域となっています。直下型の地震の発生確率は、国内において最も高くなっている地域です。どうぞ、ご家族で避難経路をどうするか、防災上必要なものをどう揃えるかを考えてはいかがでしょうか。

また、天災に対応できるリスク転嫁プラン、つまり保険が適切に契約締結なっているかの点検もお忘れなく。

2. ここがへんだよ日本の保険

最近、生命保険を購入するときに契約者となる方が「生きている間にお金（保険）を使いたいから、生きている間に保険金が支払われるのが良い」と言う場合が多く見受けられます。生命保険は、長期の資産形成に適しています。当社でも生命保険の設計をする場合、どちらかといえば長期資産運用を前面に押し出しながらお奨めしていることが多いと思います。この場合、あくまで短期ではなく長期と言うことを強調しておきます。

長期資産運用は、時間をかけ大きな収益を得ることが目的であり、短期で解約をすることは得策ではありません。

生命保険の長期資産運用機能とともにもう一つの大重要な機能「死亡保障」があります。
死亡保障の機能は

- ①残された家族の生活資金
- ②子どもにかかる教育・結婚資金
- ③住宅購入資金
- ④死後の整理資金・生活立て直し資金

などが挙げられます。④の死後の整理資金においては、ほとんどの方が必要な資金となります。人間は残念ながら必ず“死”が訪れます。死亡すれば保険金が支払われる生命保険（ここでは終身保険）は合理的な財務手段と言えます。

ただし、おなじ終身保険でも保険料支払い累計額が死亡保障を上回る場合は、非効率的と言えますので注意して下さい。

30歳男性の例では、死亡保険金500万円の終身死亡保障を60歳払込で契約した場合、月払い保険料は5,505円となります。60歳までの総支払保険料累計額は1,981,800円となり、死亡保障に対する投資効率は約2.52倍となり大変効率的と言えます。

一時払いの場合、保険料は966,380円となり、死亡保障に対する投資効率はなんと約5.17倍となります。

50歳男性の場合、死亡保険金500万円の終身死亡保障を60歳払込で契約した場合、月払い保険料は20,450円と跳ね上がりますが、総支払い保険料は2,457,000円となり、死亡保障に対する投資効率は約2.03倍となります。

一時払いの場合、保険料は1,789,855円となり、死亡保障に対する投資効率は約2.79倍となります。ちなみに80歳で亡くなったと仮定して考えれば、年平均利回りはなんと5.98%に匹敵します。運用の観点からしても、ある程度成功したのと同じ効果が得られます。

死後の整理資金（葬祭費や墓石・仏壇の購入資金など）を500万円準備するに、500万円の現金で準備するより、保険の方が効率的に準備ができるということになります。

500万円の使えない現金を長期に保有するよりも、約179万円（50歳男性）の資金で死後に500万円以上を支払ってくれる保険の方が効率は良くなります。残り321万円を自由に使ったり、または他の運用に廻すこともでき、さらに効率は高まります。

また、生命保険金の受取人に対し確実に保険金が担保されることと、税金での優遇措置があることも見逃すことができません。

これらは次号に詳しく説明をしたいと思います。

3. FPまいんど

体系的なお金の教育は我が日本において、ほとんどなされていないのが現状ではないでしょうか。子どもにお金（金融）の知識を学ばせたいと考えている親は少なくないですが、何をどう教えていいのか、親もわからないのが本音。そこで、金融先進国アメリカの金融教育の現状を紹介したいと思います。

アメリカ金融教育の学年別の到達目標の例。

◇小学4年生までに学ぶべき知識（グレード4）

- ①貯蓄は将来の経済的目標を達成するための手段である
- ②貯蓄には、欲しいものをあきらめるといった「機会費用」が伴う
- ③お金を貯める方法には貯金箱の活用、預金口座の開設、債権購入などの選択肢がある

◇中学2年生までに学ぶべき知識（グレード8）

- ①貯金は緊急の出費や短期的目標のためであるのに対し、投資は長期的目標を達成するための資金である
- ②貯蓄用と投資用の金融商品では、流動性、予想収益、リスクの大きさが異なる
- ③投資商品の収益率とリスクの大きさには、通常正の相関関係がある
- ④複利とは、元金とそれまでに得られた利子の両方に利子が付くことである
- ⑤元手を倍に増やすのに必要な期間や金利を計算するのに「72の法則」が役に立つ
72の法則：「 $72 \div \text{金利} = \text{元本が倍になる年数}$ （複利計算の場合）」

◇高校3年生までに学ぶべき知識（グレード12）

- ①一般に、将来の価値が予想しづらい資産ほど、収益率が高い
- ②税控除や繰り延べが受けられる金融商品は、長期的に収益を殖やすのに大きく貢献する
- ③資産を殖やすには、日ごろからの貯蓄、時間や複利効果を生かすのが有効
- ④様々な金融商品などに分散することで投資リスクを低減できる
- ⑤ドル・コスト平均法には長期的に投資コストを下げる効果と、定期的な投資を促す効果がある
- ⑥ミューチュアル・ファンド（投資信託）は投資家の資金を集めて有価証券を購入する仕組みである

注：NPOジャンプスタート（個人金融教育連盟）のサイトより学習ガイドラインを抜粋

皆さんいかがでしたか、皆さんの金融知識レベルはどのレベルでしょうか？

当社で行っているSMMSセミナーではグレード12以上の知識を得ることができます。

マネーセミナーは金儲けの方法を学のではなく（将来の収入アップにつながるスキルアップのための投資は推奨します）人生とお金について体系的に学ぶ機会だと思います。

4. 浦嶋繁樹氏と逢う

10月8日に、日本リスクコンサルタント協会専務理事で、㈱日本アルマックの代表取締役である浦嶋繁樹氏と逢って様々な情報交換をしました。

浦嶋氏は、秋田県出身ながら早くからリスクマネジメントの研究を手掛け、日本リスクコンサルタント協会の設立から尽力され、自ら養成講座の講師となり全国に数多くのリスクコンサルタントを輩出してきたいわゆるリスクマネジメントの第一人者であります。

大学等でも複数の講座を持たれ、上場大企業初め、都市銀行や各種金融機関、また保険会社（損保・生保）にてリスクマネジメントの講師として数多く招聘されています。

私も約8年前に彼の執筆した記事を読んでから、リスクマネジメントに興味を持つようになりました。東京で毎週土曜日に行なわれたシニアリスクコンサルタントの養成講座に通って勉強させていただきました。各分野において活躍されている専門家の方々の講座を聞いた事は、今では大変な財産となっています。

今年もFRM財務リスクマネージャー養成講座に6回通い、何とか終了することができました。FRMでは私が皆様に提供できるリスクマネジメントの専門分野がようやくでき、少しでも皆様にフィードバックできたらと思っています。

そんなところで、浦嶋氏より業務の提携話がきて、当社としても本格的リスクマネジメントの提供を行うべく、(株)日本アルマックと提携することになりました。

詳細は今後紹介したいと思います。

5. 45才までのマネー＆保険講座開催

お金と保険の基本的な考え方などを学ぶことのできる、「45才までのマネー＆保険講座」を下記の通り開催します。アメリカ金融教育目標知識のグレード12程度まで学ぶことができます。受講料は無料となります。対象年齢層18才～45才まで

日 時 平成16年11月27日(土) 午後2時~4時

(午後1時30分受付開始)

場 所 山形ビッグウイング4F会議室

お申し込みは下記の所まで電話・ファックス・Eメールにてお願いします。

住所、氏名、性別、生年月日、電話番号をご記入または口頭にて。

受付後に受講票を郵送いたします。受講票は受講時にご持参して下さい。

ご注意：締め切りは11月19日（金）となります。お早めに

登行者

有限会社 FPコンパス

武田幸夫

元994-0054 川形県天童市蘿谷2589

TEI 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail: tide@mm.neweb.net.tw